

# 旭川で実施した各種調査報告【資料-2】

## ①河川一斉水質調査結果報告（旭川）

調査結果報告：旭川流域ネットワーク「一斉水質調査」実行委員長 池田満之氏

「旭川流域一斉水質調査」は、旭川の定期健康診断として、旭川流域ネットワーク（実行委員長 池田満之）によって、1999年5月の第1回調査から数えて5年連続実施されています。今年は第6回目を迎え2004年5月9日（日）午前10時から隣接する笹ヶ瀬川流域を含む流域全体で109ヶ所、256名の市民参加で行われました。調査は、例年通り、水温、pH、COD、亜硝酸性窒素について調べ、不法投棄の状況調査も継続して行われています。

### 2004年の調査結果

今年の調査は、昨年に引き続き天候に恵まれず、雨の影響を受ける調査となった。ただし、昨年と比べ雨の影響は少なく、河川の濁りも昨年ほどではないことから、昨年が**強い雨**の影響を受けた時の様子、今年は**弱い雨**の影響を受けた時の様子と見ることができる。

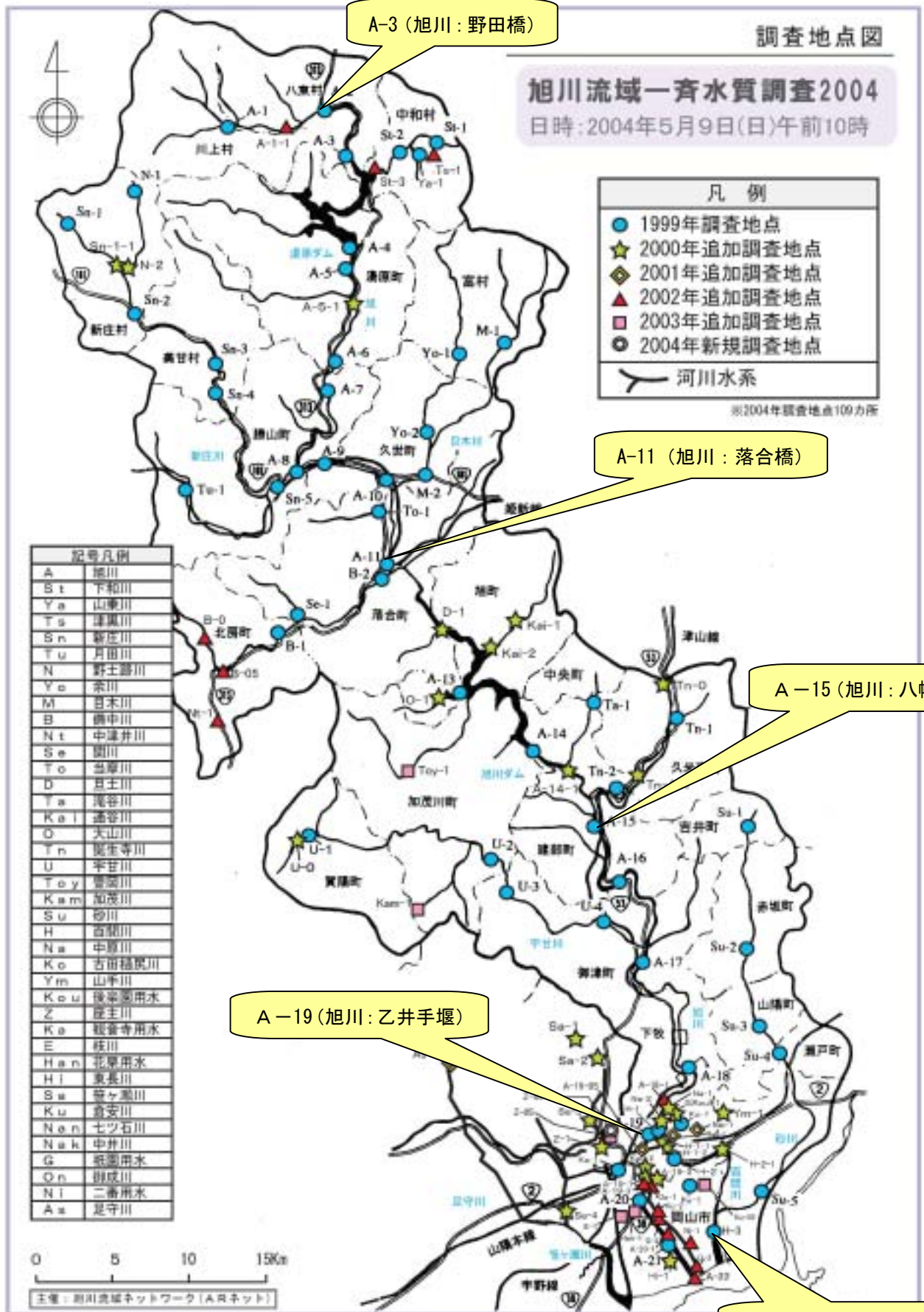
**COD**は、旭川本流は全区間で5mg/l以下という良好な状態を維持している。これに対し、支流では、所々で水質の低下が見られた。昨年、新庄川で水質低下があったが今年の場合には見られなかった。ただ、この点については、気象動向と深く関わるため、気象と水質調査結果の関わりについて、今後、詳細な解析検討を行っていきたい。

**水温及びpH**は、昨年と同様の傾向が見られ、旭川本流上の2つのダム湖（旭川ダム湖と湯原ダム湖）による影響が大きく、ダム湖内では水温もpHも前後域と比較して高くなっている。特に、湯原ダム湖はダム堰堤前後での温度差が大きく、旭川ダム湖はpHが環境基準を上回る箇所が見られた。なお、最上流域から上流域にかけての支流の上流部では、pHが酸性気味の値を示す所が見られましたが、備中川は今年もややアルカリ性気味の値を示す所が見られる。

**亜硝酸性窒素**は、下流域に汚濁が集中していることがよくわかり、上流から中流にかけての支流部においても、所々に亜硝酸性窒素が検出された。雨による影響なども考えると生活排水系以外からの流出も値を高める要因になっているのではないかと見られる。

**不法投棄の状況調査**では、昨年と同様に下流域で不法投棄が多く見られた。人口も集中している下流域における河川愛護への意識啓発がより重要なように思われる。

私たちは、この貴重なデータを流域の皆さんと共有し、誰もが自分たちのふるさとの川の水質に関心を持ち、お互いに意識して努力し、いつかは水質的にも流域全体がもっと健康で元気な状態になるようにしていきたいと思えます。



吹き出し地点: 水質経年変化図作成

H-3 (百間川: 清内橋)

## 5月9日(日) 旭川流域一斉水質調査写真



調査地風景(旭川ダム)



調査状況②

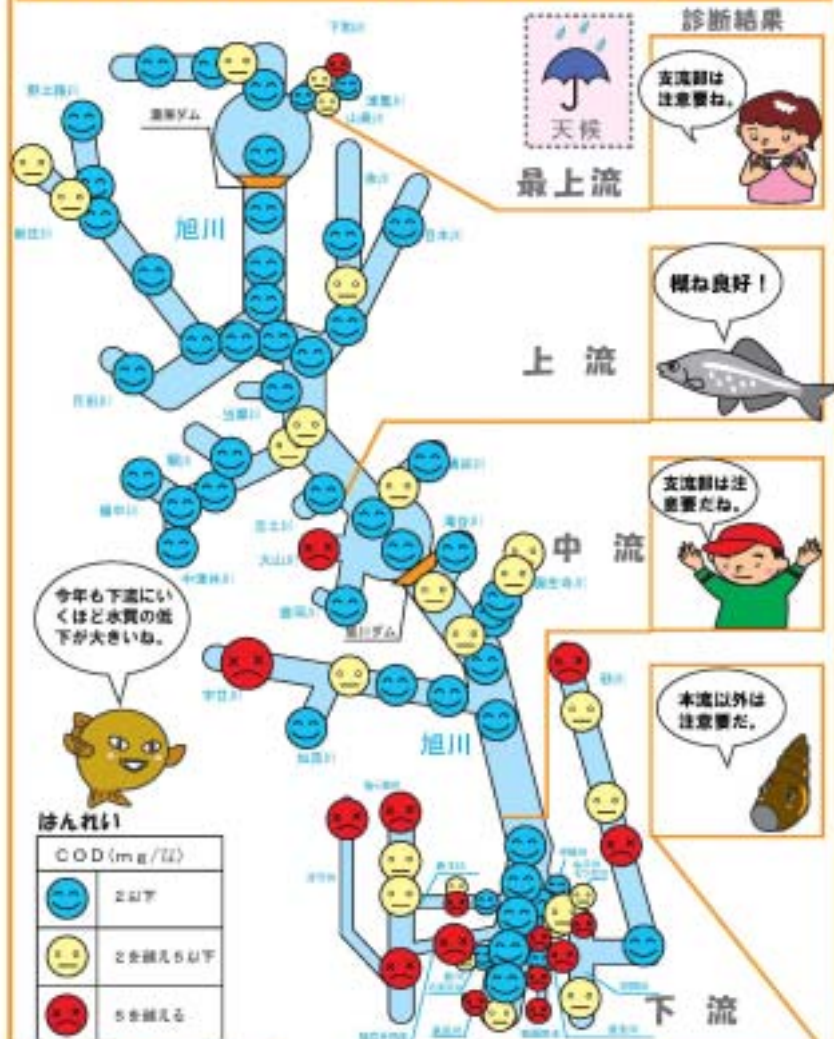


調査状況①



結果集計状況(岡山河川事務所)

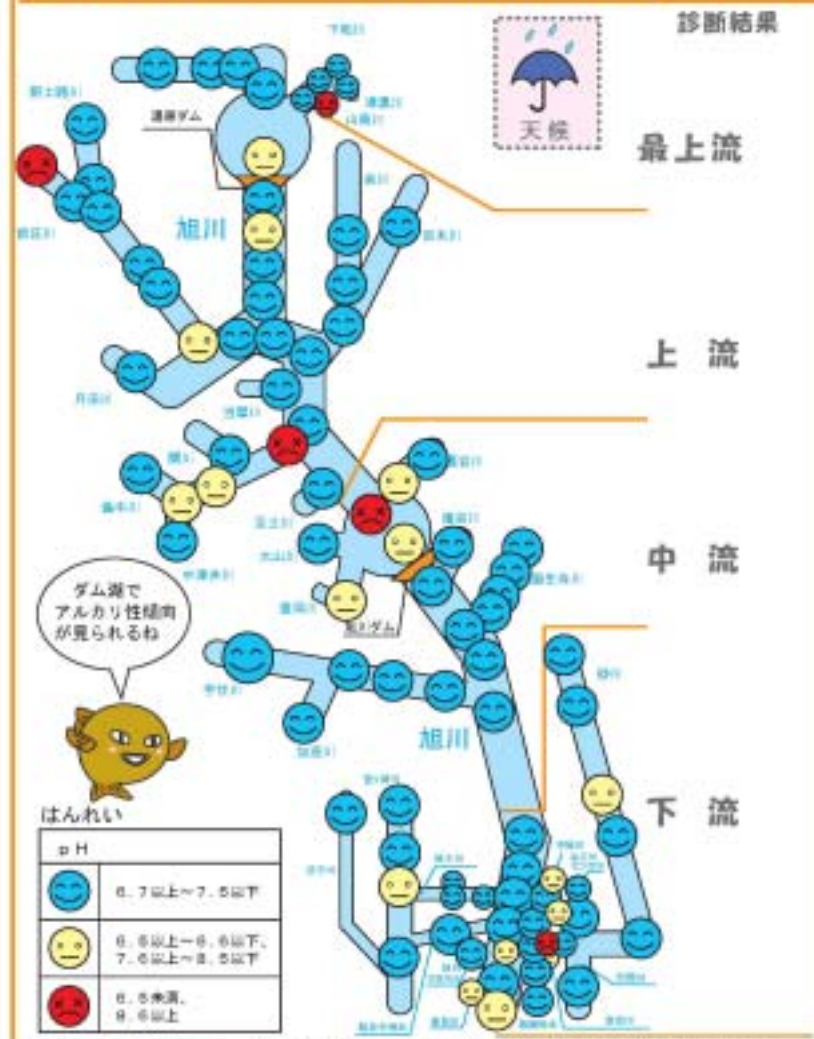
# 旭川のけんこうしんだん2004 COD



旭川流域ネットワーク

<2004年5月8日(日)0時 流域内108箇所一斉水質調査(296人参加)実施結果より>  
 ※水質(調査箇所) 旭川流域環境協議会、結果報告協力 国土交通省旭川河川事務所

# 旭川のけんこうしんだん2004 pH



旭川流域ネットワーク

<2004年5月8日(日)0時 流域内108箇所一斉水質調査(296人参加)実施結果より>  
 ※水質(調査箇所) 旭川流域環境協議会、結果報告協力 国土交通省旭川河川事務所

# 旭川のけんこうしんだん2004 水温

診断結果



ダムが水温変化に影響を及ぼしているね。

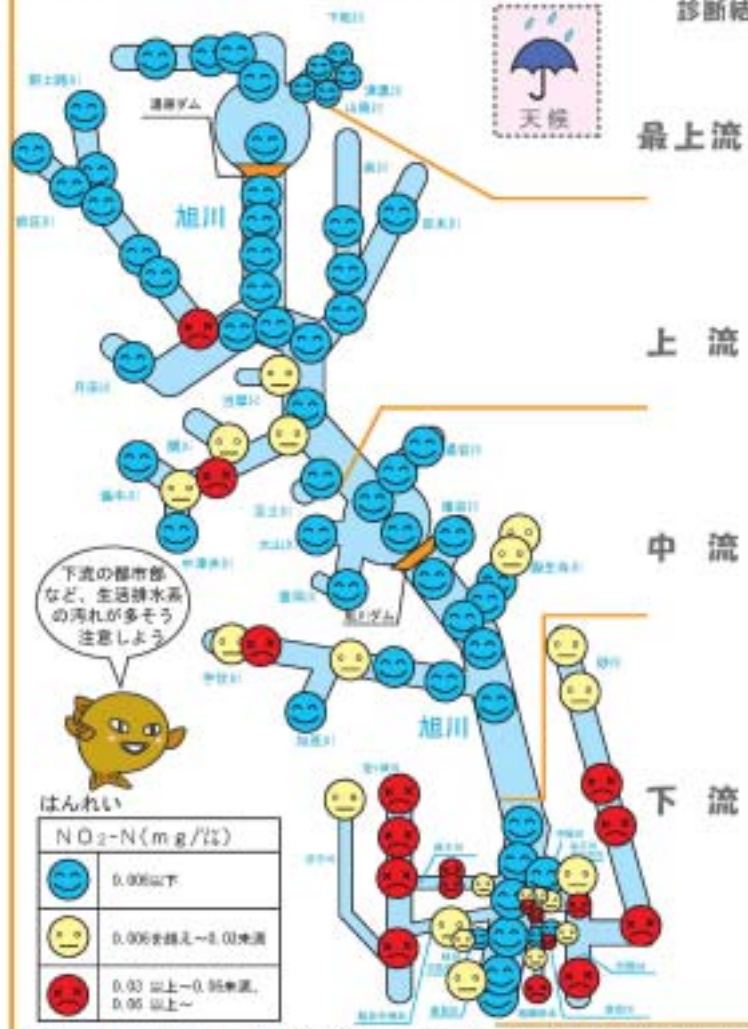
はんれい

水温(°C)	説明
🟡	1.7以上~1.9未満, 1.9以上~
🟢	1.0以上~1.7未満
🟣	1.3以上~1.6未満, 1.3未満

旭川流域ネットワーク <2004年5月9日(日)19時 流域内100箇所一斉水温調査296人参加(実施結果より)>  
 ※実施結果発表先: 旭川流域環境協議会、旭川市環境部、旭川市環境センター、旭川市環境センター

# 旭川のけんこうしんだん2004 NO<sub>2</sub>-N

診断結果

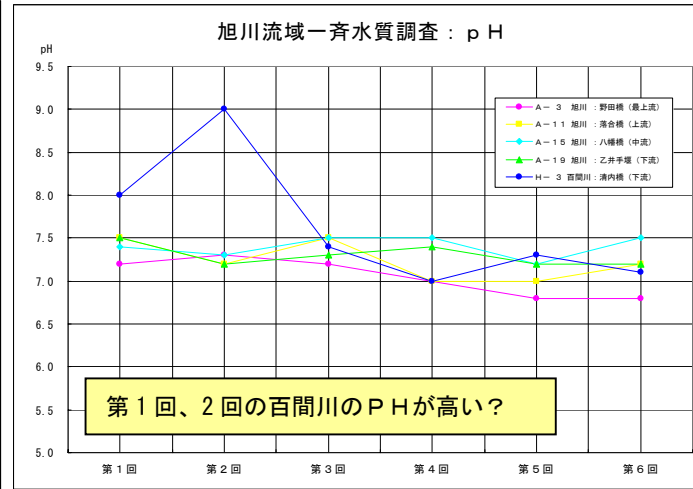
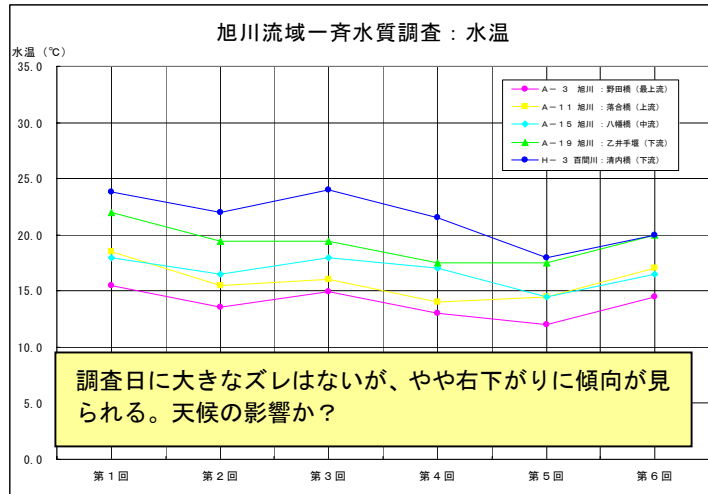


下流の都市部など、生活排水系の汚れが多そう 注意しよう

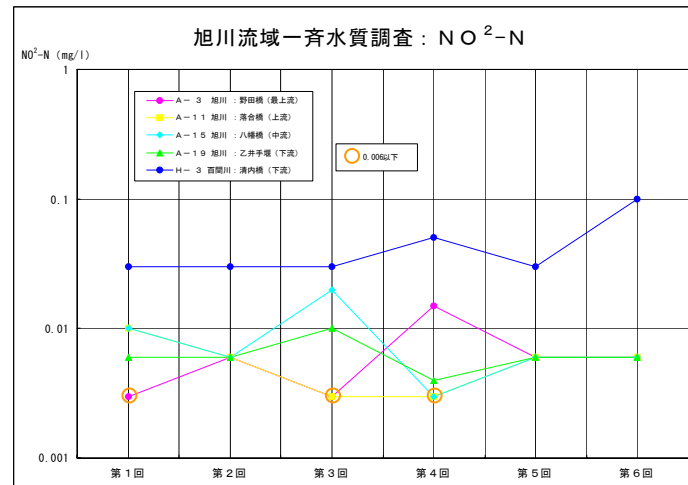
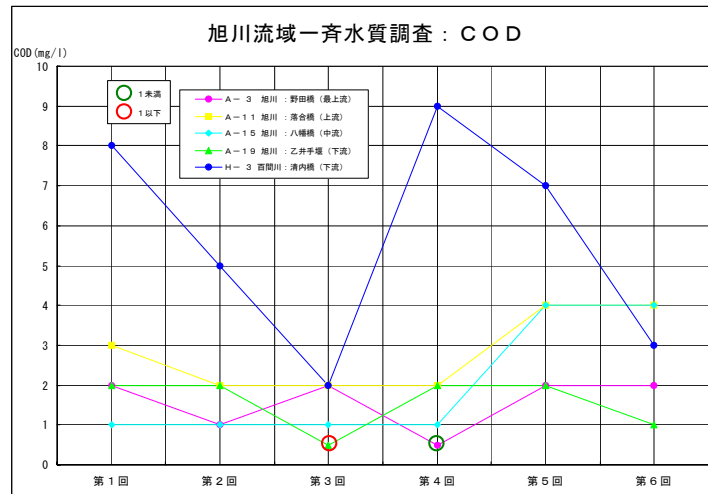
はんれい

NO <sub>2</sub> -N(mg/l)	説明
🟢	0.000以下
🟡	0.005未満~0.010未満
🔴	0.015以上~0.050未満, 0.050以上~

旭川流域ネットワーク <2004年5月9日(日)19時 流域内100箇所一斉水質調査296人参加(実施結果より)>  
 ※実施結果発表先: 旭川流域環境協議会、旭川市環境部、旭川市環境センター、旭川市環境センター



回数	調査日	天候
第1回	1999年5月16日(日)	全域的に曇り
第2回	2000年5月14日(日)	全域的に曇り
第3回	2001年5月13日(日)	全域的に晴れ
第4回	2002年5月12日(日)	全域的に晴れ
第5回	2003年5月11日(日)	全域的に雨
第6回	2004年5月9日(日)	全域的に小雨



水質の経年変化 (1999~2004年の6年間データ)

# 参 考

## 平成15年一級河川の全国水質ランキング (BOD)

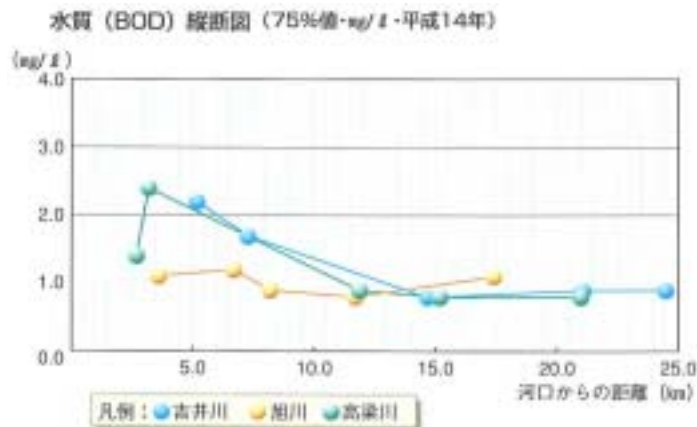
旭 川：51位 / 156河川 (平成14年；45位 / 149河川)

吉井川：70位 / 156河川 (平成14年；91位 / 149河川)

高梁川：88位 / 156河川 (平成14年；80位 / 149河川)

資料：「平成15年一級河川の水質現況」記者発表資料

### 水質



### 環境基準及び観測所図



資料：岡山河川事務所事業概要 (2004)

# 旭川で実施した各種調査報告【資料- 2】

## 河川空間利用実態調査

### 一級水系における河川・ダム湖空間利用実態調査結果の概要

国土交通省は、平成3年度より散策・スポーツ・水遊びなどの河川及びダム湖の利用実態を調査する「河川空間利用実態調査」「ダム湖利用実態調査」を行っています。

今回は、平成15年度に実施した全国109の一級水系の内108水系の調査結果を平成16年8月6日に記者発表の形で公表されました。

### 平成15年度の全国108水系における河川・ダム湖の利用者数

年間の水辺空間（河川+ダム湖）利用者は約2億489万人。  
 河川の直轄管理区間（ダム湖の区間を除く）1kmあたりでは約2万2千人。  
 ーダム湖当たりの平均では約1万4千人であることが分かりました。

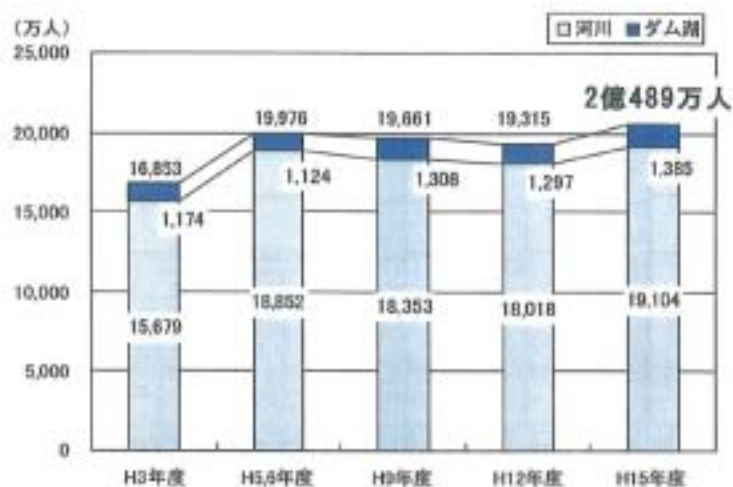
### 中国地方の直轄管理13水系・直轄管理6ダムでの利用者数

年間利用者数（河川）

中国地方13水系の散策、スポーツなどの利用者数、合計約850万人。

年間利用者数（ダム）

中国地方6ダムの利用者数、散策、野外活動などの利用者数、合計約90万人。



全国一級河川（直轄管理区間）の利用者数の推移

### 平成15年利用実態調査の実施日（赤字は休日）

季節	河川	ダム湖
春季	平成15年4月29日（火）（みどりの日）	平成15年4月29日（火）（みどりの日）
	平成15年5月5日（月）（こどもの日）	平成15年5月5日（月）（こどもの日）
	平成15年5月18日（月）	平成15年5月18日（木）
夏季	平成15年7月27日（日）	平成15年7月27日（日）
	平成15年7月28日（月）	平成15年8月7日（木）
秋季	平成15年11月3日（月）（文化の日）	平成15年11月3日（月）（文化の日）
冬季	平成16年1月12日（月）（成人の日）	平成16年1月11日（日）

※一部の水系において、天候・地震の発生等の事情により、調査実施日を若干ずらしています。



### 旭川（あさひがわ）

- 平成 15 年度の各調査日の利用者数は、4 月 29 日（10,968 人）最多。次いで 5 月 5 日（4,070 人）、7 月 27 日（4,014 人）の順。4 月 29 日以外の調査日：1,000～4,000 人程度。
- 前回（平成 12 年）と比較すると全体的に利用者が減少。特に 4 月 29 日は、前回は百間川で「ふれあいフェスティバル」のイベントがあり（主催者発表値 32,000 人）、今回 3 万人以上の減少。平成 15 年度 11 月 3 日調査は、天候（雨）で利用者減となった。
- 利用形態別では、スポーツは 4 月 29 日の百間川 12～12.9k（右岸）の高水敷、散策等は 4 月 29 日の百間川 10～11k（右岸）及び 12～12.9k（左岸）の高水敷利用が多い。水遊びは 7 月 27 日の旭川 3～4k（左岸）が最多、釣りは 1 月 12 日の旭川 14～15k 付近が最多であった。
- 平成 15 年度の旭川の年間河川空間利用者総数（推定）は約 52 万人。沿江市町村人口（約 70 万人）からみた年間利用回数は 0.7 回 / 1 人である。
- 利用形態別では、散策等 55% で最多、スポーツ 34%、水遊び 7%、釣り 4% の順。平成 12 年度との比較では、スポーツの割合が減少、散策等、水遊び及び釣りの割合が増加している。
- 利用場所別にみると、高水敷 75% で最多、堤防 14%、水面、水際の順。平成 12 年度との比較では、堤防利用が大きく増加（4% → 14%）、高水敷の利用は大きく減少（94% → 75%）となっている。

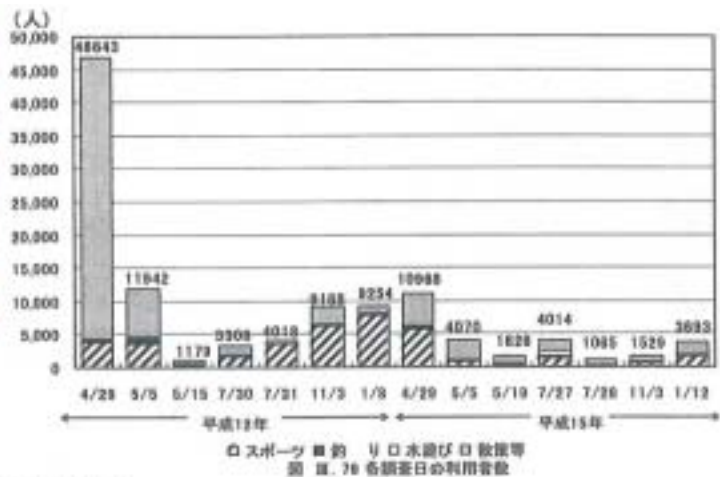
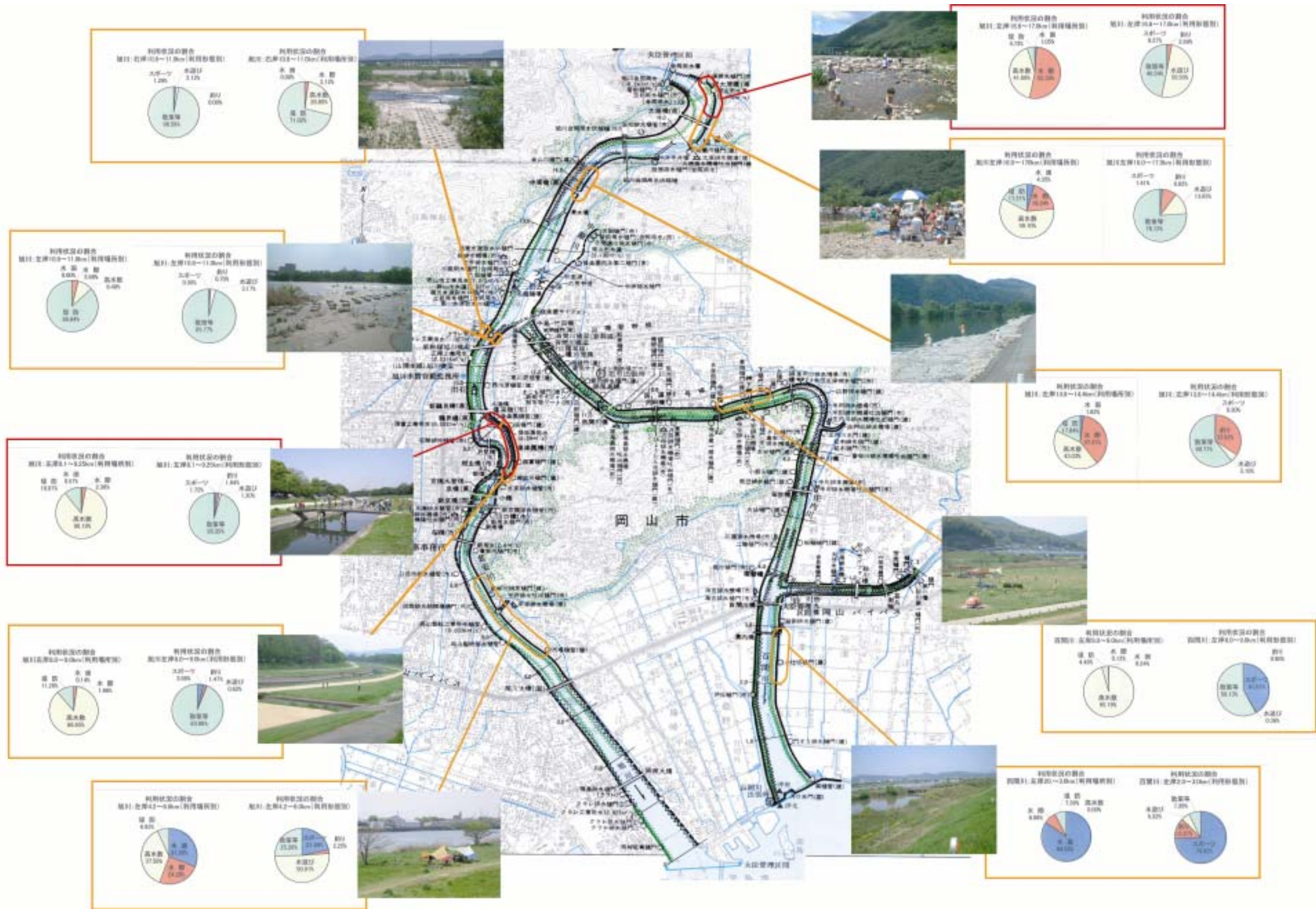


表 Ⅲ-76 旭川の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値 (千人)		利用状況の割合			
		平成12年度	平成15年度	平成12年度		平成15年度	
利用形態	スポーツ	735	175	散策等(30%)	スポーツ(48%)	散策等(55%)	スポーツ(34%)
	釣り	16	23	水遊び(1%)	釣り(1%)	水遊び(7%)	釣り(4%)
	水遊び	18	34				
	散策等	752	284	堤防(4%)	水面(0%)	堤防(14%)	水面(8%)
計	1521	516	高水敷(94%)	水面(2%)	高水敷(75%)	水面(3%)	
利用場所	水面	5	29	高水敷(94%)	水面(2%)	高水敷(75%)	水面(3%)
	水際	29	28				
	高水敷	1420	389				
	堤防	67	70				
計	1521	516					

利用者数合計が前回と比べ約百万人減少した点は、平成 15 年は雨天日が多かったため、イベント利用等が減り利用者が減少したものと思われる。



平成15年度調査：旭川の河川空間利用実態調査結果（定点観測による年間利用者数より利用形態別、利用場所別割合を示したもの）

## 高梁川（たかはしがわ）

- 平成 15 年度の各調査日の利用者数は、7 月 27 日(9,969 人)が最多、次いで 4 月 29 日(7,361 人)、5 月 5 日(6,297 人)の順。秋季・冬季(11/3 及び 1/12)や平日(5/19 及び 7/28)では利用者が少ない。
- 前回と比べ、春季の休日(4/29、5/5)及び夏季の休日(7/27)で大幅増。休日調査日に左岸 18~20k 地点において行われた「サッカー大会」が影響。
- 利用形態別では、スポーツは、7 月 27 日の高梁川 19~20k(左岸)における高水敷が最多。散策等は、5 月 5 日の高梁川 4~6k(左岸)、14~16k(両岸)及び 19~21k(左岸)付近で多くの利用者が楽しまれている。水遊びは、夏季ではなく、春季の 4 月 29 日に高梁川 - 3~0k 付近が最多。釣りは、7 月 27 日の高梁川 - 2~-1k 付近が最多。
- 年間河川空間利用者総数(推定)は約 48 万人である。平成 12 年度との比較では約 15 万人増加している。沿川市町村人口(約 58 万人)からみた年間平均利用回数は 0.8 回/1 人となっている。
- 利用形態別には、スポーツの 53% が最多、次いで散策等 31%、水遊び、釣りの順。平成 12 年度との比較では釣りや水遊びが減少、スポーツが増加している。利用場所別では、高水敷が 73% で最多。平成 12 年度との比較では水面と水際が減少、堤防の割合が増加している。

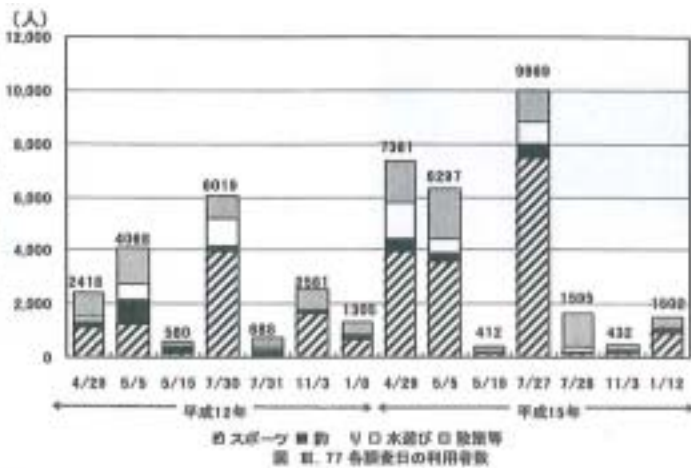


表 77 高梁川の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合			
		平成12年度	平成15年度	平成12年度		平成15年度	
利用形態別	スポーツ	153	251	散策等(30%)	スポーツ(49%)	散策等(31%)	スポーツ(53%)
	釣り	42	29				
	水遊び	40	48				
	散策等	99	149				
合計	334	477	水遊び(12%)	釣り(6%)	水遊び(10%)	釣り(6%)	
利用場所別	水面	29	17				
	水際	53	59				
	高水敷	249	350				
	堤防	3	51				
合計	334	477	高水敷(74%)	水際(10%)	高水敷(73%)	水際(12%)	

## 吉井川（よしいがわ）

- 平成 15 年度の各調査日の利用者数は、7 月 27 日（8,360 人）が最多、次いで 5 月 5 日（3,535 人）4 月 29 日（2,302 人）の順。冬季（11/3 及び 1/12）や平日（5/19 及び 7/28）では利用者が比較的少ない。
- 前回と比べ全体的に利用者が増加、特に夏季の休日には 6,000 人以上の増加。
- 利用形態別では、散策等・水遊びが 7 月 27 日の 4~5k（左岸）及び 20~21k（左岸）の高水敷、水面や水際での利用者が多い。特に 4~5k（左岸）付近は「新地箇所付近左岸河川敷公園」となって水上スポーツも楽しめる場所である。スポーツは 5 月 5 日の 16~17k（左岸）、釣りは 5 月 5 日の 23~24k（左岸）が最多。
- 平成 15 年度の年間河川空間利用者総数（推定）は約 33 万人である。平成 12 年度との比較では約 16 万人の増加。沿川市町村人口（約 86 万人）からみた年間平均利用回数は 0.4 回/1 人となっている。
- 利用形態別では散策等が 56% で最多、次いでスポーツ 20%、水遊び 14%、釣り 10%。平成 12 年度に対し散策等の割合が大幅に高くなっており、高水敷の整備によるものと考えられる。
- 利用場所別では高水敷の 68% が圧倒的に多く、次いで水際 14%、水面 11%、堤防 7% の順。平成 12 年度との比較では水際が減少し、高水敷が増加する傾向にある。

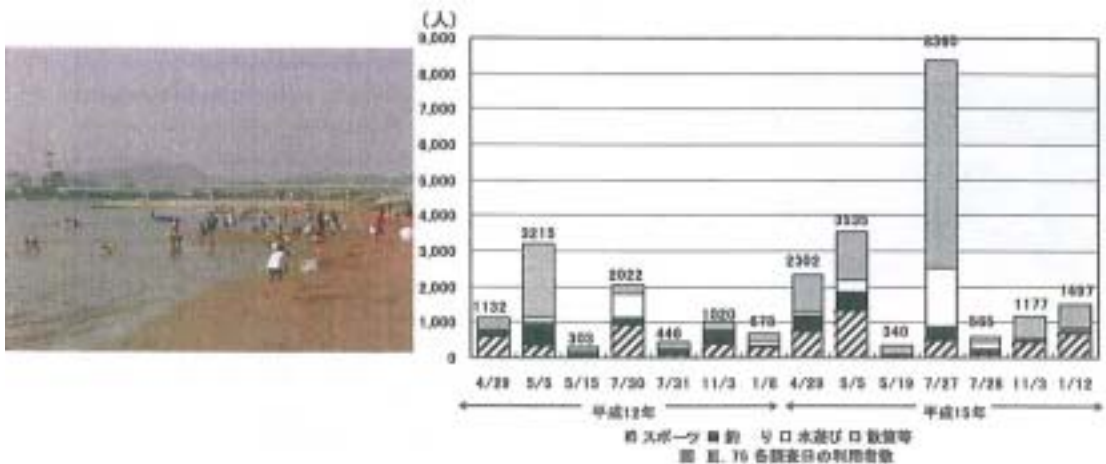


表 76 吉井川の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合			
		平成12年度	平成15年度	平成12年度		平成15年度	
利用形態別	スポーツ	50	68	スポーツ(30%)		スポーツ(20%)	
	釣り	35	33	釣り(21%)		釣り(10%)	
	水遊び	19	48	水遊び(11%)		水遊び(14%)	
	散策等	63	183	散策等(38%)		散策等(56%)	
	合計	167	332	堤防(7%)		堤防(7%)	
利用場所別	水面	15	35	水面(9%)		水面(11%)	
	水際	39	48	水際(23%)		水際(14%)	
	高水敷	102	228	高水敷(61%)		高水敷(68%)	
	合計	167	332	堤防(7%)		堤防(7%)	



# 旭川で実施した各種調査報告【資料- 2】

## 水生生物による水質の簡易調査

### 平成 16 年度の水生生物による水質の簡易調査の実施

川の中には、様々な生物がそれぞれに適した環境のもとで生息しています。中でも、川底に住む生き物は、水質の影響を受けやすく、長時間にわたって一定の場所に生息しているため、川の水質汚濁の長期的・複合的な影響を的確に反映しています。

「水生生物による水質簡易調査」は、誰でも簡単に参加でき、高価な機材を必要としないため、水遊び感覚で川底の生物を採取して、その種類や数を調べることで川の比較的長い期間の水質を簡単に知ることができます。また、調査を通して川を身近に感じてもらい、河川愛護、水質浄化などへの関心を持っていただく事も期待しています。

例年多くの子供達に参加していただき、岡山河川事務所では平成 16 年度も 7 月から 8 月にかけて小中学生約 140 名の参加を得て実施しました。



河川名：旭川  
地 点：新大原橋  
調査日：7月23日  
学校名：山陽東小学校



河川名：旭川  
地 点：三野  
調査日：7月30日  
学校名：芳田小学校



河川名：旭川  
地 点：新大原橋  
調査日：7月26日  
学校名：高島中学校

水のきれいさの程度（階級）とその指標となる生物

I：きれいな水の生物	III：少しきれい水の生物
ホリゴサ、ナガレトビケサ、ヤマトビケサ ヒラタドコムシ、ヘビトンボ、ブム、アヒル カズムシ、オリゴニ	コガタシマトビケサ、オホシマトビケサ ヒラタドコムシ、ダンジロコムシ、コオノヤシロ ホリゴサ、カズムシ、オヤマトビケサ、オシロコガサ
II：きれいな水の生物	IV：大変きれいな水の生物
ヒメムシ、ヒメオヤシロ、アヒコガサ、ヒル カズムシ、オシロコガサ、オシロコガサ	セムシコガサ、オシロコガサ、オシロコガサ オシロコガサ、アヒコガサ





# 旭川で実施した各種調査報告【資料- 2】

## -1 出水前点検

### ゴールデンウィークに先がけ岡山三川の河川敷や水面の安全利用点検の実施

近年、河川等で自然と親しんだり、カヌー等の水面を利用したレクリエーションが盛んになり、皆さんが河川を利用する機会が多くなってきています。気候も良くなり、河川利用の頻度が高くなると予想されるゴールデンウィークにさきがけ、安心して河川敷や水面を利用していただくという観点から岡山三川（吉井川・旭川・高梁川）の安全利用点検を次のとおり実施しました。

#### 点検する区域等と点検内容

点検する区域は、川へのアクセス路、散策路、親水護岸など人と川のふれあいの場となっている区域とし、そこに設置されている施設（堤防、低水護岸、高水敷、管理用通路、階段、船着場、水門、樋門、排水機場、堰、水制、根固め、床固め、水位観測所等）とした。

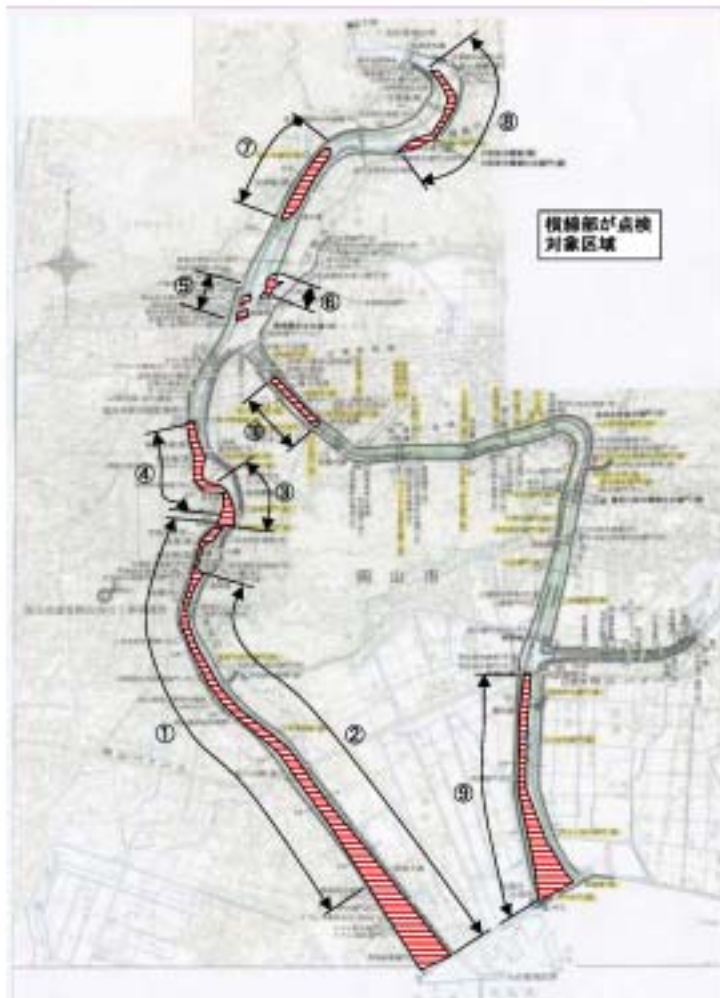
#### 実施日時

旭川：平成16年4月22日（木）10:00～15:00

吉井川：平成16年4月23日（金）10:00～15:00

高梁川：平成16年4月26日（月）10:00～15:00

水面利用区域における安全点検実施範囲（旭川）





## 点検実施状況写真

		河川名 澁川水系澁川
	【中国地方整備局】	事業所名 岡山河川事業所
場所	岡山県岡山市内山下地先 澁川水系澁川 右岸河口より7K700～800	捨石工
実施状況 捨石工の破損状況を点検(全景)		
		
実施状況 捨石工の破損状況を点検(近景)		
		

## 点検実施状況写真

		河川名 澁川水系澁川
	【中国地方整備局】	事業所名 岡山河川事業所
場所	岡山県岡山市平井地先 澁川水系澁川 左岸 3.600k付近	
実施状況 : 根固工(蛇籠)の損傷		【平井箇所】
		
実施状況 : 根固工(蛇籠)の損傷		【平井箇所】
		

## 点検実施状況写真

	河川名 黒川水産精製川
	【中国地方整備局】事務所名 岡山河川事務所
場所	岡山県岡山市石園地先、中井地先
実施状況	右岸9. 1K付近の水辺の回廊を点検
	
実施状況	右岸10. 85K付近のクラレ取水堰を点検
	

別表

河川における安全利用点検に関する点検結果表

整備品等名	中国地方整備品	事業所名	岡山河川事業所	水名	河川	河川名	河川	点検項目	点検結果	区分	実施する措置 (予定)
区域番号	左右岸	区	域	点検実施 期 間	対象施設						
①	右岸	3670	H16422	川渡防波堤	・施設の種類による危険性の増大			・施設部に保固施設の劣化あり	2		本) 撤去する。
	右岸	3670 ~ 280	H16422	砥水護岸	・施設の構造による危険性の増大			・砥水護岸天端部(6箇所)及び水防壁(1箇所)に保固施設の劣化あり	2		本) 撤去する。
	右岸	3670	H16422	砥水護岸	・施設の構造による危険性の増大			・砥水護岸にゆるみあり	2		・補修する。
	右岸	3670	H16422	砥水護岸	・施設の構造による危険性の増大			・砥水護岸天端コンクリートに損傷あり	2		本) 撤去する。
	右岸	4200	H16422	砥水護岸	・施設の構造による危険性の増大			・砥水護岸にゆるみあり	2		・詳細調査を行う。
	右岸	4670 ~ 800	H16422	砥水護岸	・施設の構造による危険性の増大			・砥水護岸に損傷あり	2		・施設管理者へ連絡する。
	右岸	3670 ~ 850	H16422	積石	・施設の構造による危険性の増大			・積石工の固着めがねの取付により空間あり	2		・調査を実施する。
	右岸	8600	H16422	倉庫部グレーチング	・施設の構造による危険性の増大			・倉庫部グレーチングの老朽化とメッシュ間隔の広く、転倒等の危険あり	2		・施設の管理者へ連絡する。

注) ・対象施設及び点検項目については、対象区域別に、実施した点検内容について記載。(個々の施設毎に記載するものではない)  
 ・点検結果及び危険状態については、点検の結果、何らかの措置が必要とされた施設について記載。  
 ・区分欄は、①利用者的人身に重大な危険が生じる。  
 ②利用者的人身に重大な危険が生じない。を記載。  
 ・実施する措置(予定)欄に、本) 本施設 に分け記載。

別表

河川における安全利用点検に関する点検結果表

整備品等名	中国地方整備品	事業所名	岡山河川事業所	水名	河川	河川名	河川	点検項目	点検結果	区分	実施する措置 (予定)
区域番号	左右岸	区	域	点検実施 期 間	対象施設						
②	左岸	OK40-OK500	H16422	砥水護岸	・施設の構造及び形状等による危険性の増大			護岸護目の開き	2		しばらく様子を見る。
		3630		本箇所の固危険が予想される施設 ・伐採工	・施設の構造及び形状等による危険性の増大			蛇巻割傷	2		調査をする。
		OK700						船着防止壁の不備	2		調査をする。
		OK800-TK100		その他橋水利用に係る部分 ・平張	・施設の構造及び形状等による危険性の増大			平張りの長さ	2		管理者に連絡する。
		OK900		砥水護岸 ・橋本護岸	・施設の構造及び形状等による危険性の増大			護岸の取付	2		調査をする。
		TK200		その他橋水利用に係る部分 ・平張	・施設の構造及び形状等による危険性の増大			目地の開き	2		調査をする。
		TK100-TK200		その他橋水利用に係る部分 ・積石	・本箇を利用する観点での危険性の注意喚起			積石	2		調査をする。
		SK100		その他橋水利用に係る部分 ・橋門前部ネット	・本箇を利用する観点での危険性の注意喚起			橋門前部のネットの金具が劣れている。	2		補修する。
		SK100-SK200		本箇所の固危険が予想される施設 ・積石	・施設の構造及び形状等による危険性の増大			積石のゆるみ	2		補修する。

注) ・対象施設及び点検項目については、対象区域別に、実施した点検内容について記載。(個々の施設毎に記載するものではない)  
 ・点検結果及び危険状態については、点検の結果、何らかの措置が必要とされた施設について記載。  
 ・区分欄は、①利用者的人身に重大な危険が生じる。  
 ②利用者的人身に重大な危険が生じない。を記載。  
 ・実施する措置(予定)欄に、本) 本施設 に分け記載。

別表

河川における安全利用点検に関する点検結果表

整備局等名	中国地方整備局	事業所名	岡山河川事務所	本系名	期別	河川名	区間別		
区域番号	社 区 域		点検実施 期 間	対 象 箇 所	点 検 項 目	点 検 結 果	区分	実 施 する 措 置 ( 予 定 )	
	左右岸	区 域 番 号							
②	左岸	114～123	H184.22	(水面利用の障害 障が予想される 施設) ・敷 設 ・護 岸 ・浮き輪 ・浮き輪架	・施設の損傷及び変形等による 危険性の増大 ・水面を利用する観点での危険 性の注意喚起	・11と600付近横びきりが水に浸かっ ている。また横びきりの間隔が広すぎる。	2	調査する。	

注) ・対象施設及び点検項目については、対象区域毎に、実施した点検内容について記載。(個々の施設毎に記載するものではない)  
 ・点検結果及び対応措置については、点検の結果、何らかの措置が必要とされた施設について記載。  
 ・区分は、(1)河川利用の安全に重大な危険が生じる、を記載。  
 ・実施する措置(予定)欄に、(2)対応措置、(3)本施設、に分けて記載。

別表

河川における安全利用点検に関する点検結果表

整備局等名	中国地方整備局	事業所名	岡山河川事務所	本系名	期別	河川名	区間		
区域番号	社 区 域		点検実施 期 間	対 象 箇 所	点 検 項 目	点 検 結 果	区分	実 施 する 措 置 ( 予 定 )	
	左右岸	区 域 番 号							
①	右岸	8K180	H184.22	捨石 (水辺の回廊)	・施設の損傷及び変形等による 危険性の増大	・護岸が被りかたれ箇所へ侵襲している。 (一部)	2	調査する。	
②-1	左岸	3K850		アクリル水堀	・施設の損傷及び変形等による 危険性の増大	・捨石(横割め)のゆるみがあった。	2	管理者に連絡する。	
③	左岸	2K300		コンクリート水堀	・施設の損傷及び変形等による 危険性の増大	・おぼろみの一部にてらつき(ゆるみ)があ った。	2	調査する。	
④	左岸	3K800		捨石	・施設の損傷及び変形等による 危険性の増大	・護岸が被りかたれ箇所へ侵襲している。 (一部)	2	調査する。	
⑤	左岸	3K850		子供の水辺遊歩 (玉砂)	・水面を利用する観点での危険 性の注意喚起	・注意看板の増設が必要。	2	注意看板を増設する。	

注) ・対象施設及び点検項目については、対象区域毎に、実施した点検内容について記載。(個々の施設毎に記載するものではない)  
 ・点検結果及び対応措置については、点検の結果、何らかの措置が必要とされた施設について記載。  
 ・区分は、(1)河川利用の安全に重大な危険が生じる、を記載。  
 ・実施する措置(予定)欄に、(2)対応措置、(3)本施設、に分けて記載。

## -2 堤防等の緊急点検

新潟・福井豪雨で河川堤防破堤等による甚大な被害が発生したことに鑑み、岡山三川（吉井川・旭川・高梁川）の目視による堤防等の緊急点検を8月9～11日に実施しました。

### 点 検 箇 所

- 高水敷、低水護岸 ●堤防表のり面、高水護岸 ●堤防天端
- 堤防裏のり面 ●堤脚水路 ●樋門等構造物周辺



旭 川 平成16年8月 9日 (月) 9:00～15:00

高梁川 平成16年8月10日 (火) 9:00～15:00

吉井川 平成16年8月11日 (水) 9:00～15:00

## 堤防等の緊急点検実施

### 国交省岡山河川が旭川などで

国土交通省岡山河川事務所は9日、先般、新潟・福井で河川堤防破堤等により甚大な被害が発生したことをうけ、旭川の新大原橋上流から河口までの全線約17.2kmと百間川12.9kmを総勢25人が7班に分かれ、法面の亀裂や芝のはがれなどがないかどうかを点検、小規模な亀裂や樋門や階段で段差のある個所が見つかったものの特に緊急的に整備が必要な個所はなかった。

同事務所では、10日に高梁川、11日にも吉井川で緊急点検を実施、結果を踏まえ修繕個所があれば早急な対応を図っていく考え。



旭川堤防を点検する  
岡山河川事務所職員

- 建設新聞【1面】2004年（平成16年）8月11日（水） -